

加藤 過去の留学生の中には、夫が父親代わりになっている子もいて、結婚式に親代わりで行ったこともあり、留学生とはずっと関わってきけるんです。加藤 子どもたちを何人も育てている親のようですね。

ホリー 私が風邪をひいた時には病院に連れて行ってくれたり、いつも助けてくれてとても優しいです。私たちの母さんのように思っています。

パク いつも僕たちの生活の面倒を見てくださって『国際交流会館の象徴』だと思います。文子さんは、僕たちがここに来た時からずっと笑顔で、本当に落ち着きます。初めての留学生生活なのに、ここが地元のように感じます。

ジャスミン 利通さんは初めて会った時は少し怖かったけど、会館のルールもしっかり説明してくれて実は優しいんだとわかりました。

加藤 留学生と交流して、お世話をする下地は奥さまが作られたんですね。留学生の皆さんは、小林さんご夫婦の印象はどうでしたか？

厳しいパパと
笑顔で元気なママ



■恵方巻きを食べる国際交流会館の学生たち



チョウ・ワンソクさん
韓国外国語大学からの留学生。日本地域学と経営学を専攻しており、現在3年生。8月に帰国するとすぐに就活を始めなければならないという。



ジャスミン・ハバナさん
アメリカ・ラトガーズ大学からの留学生。現在3年生。都留興譲館高校でインターンシップ活動を行っている。



ホリー・デニスさん
オーストラリア・タスマニア大学からの留学生。日本語を専攻しており、現在2年生。来年卒業で、卒業した後日本で働きたいと考えている。



パク・ジェオンさん
韓国外国語大学からの留学生。日本地域学を専攻しており、現在3年生。今年10月には帰国予定で、「すごく早くて、ちょっと悲しいです」と話す。



■小林利通さん
国際交流会館管理人。以前はホテル業の仕事をしており、定年退職を前に国際交流会館の管理人を引き受ける。会館に暮らしながら、留学生たちの生活をサポートしている。



■小林文子さん
国際交流会館管理人。都留文科大学で第1期の交換留学生受け入れが決まった20年前から、留学生の都留での生活をサポートするコーディネートの仕事をされている。

男女共同参画の一つの柱に『多様性(ダイバーシティ)』があります。多様性とは『性別・人種・国籍・年齢・性格・学歴・宗教観・価値観等の違いを受け入れて、認め合う』ことです。今回は都留文科大学国際交流会館開設時から管理人をされている小林さんご夫婦と、そこに住む留学生にお話を伺い、『地域における多様性』について特集します。

※対談時の敬称は省略させていただきます。

留学生の都留での暮らし

前田 都留で暮らしてみてもいいですか。

チョウ 私の地元が都留と似ていることもあり、学生も優しく、純粋で気の合う人も多いです。皆と集まって遊んだり、ご飯を一緒に作ったり、とても楽しいです。

ジャスミン 私の大学は大きくて地元の街も賑やかですが、静かな都留の方が好きです。

パク 都留は山に囲まれていて素晴らしい自然も多いし、富士山もあるし、今の生活は楽しいです。

前田 地域に出かける機会はありませんか。

ホリー 私にはホストファミリーがいるので、週末に地域のイベントに連れていってもらうことはあります。先週末には、ホストマザーと勝沼の朝市に行つて、新しい友だちができました。

文子 他にも、茶道教室や座禅などの文化体験を地域の方のところでさせてもらうことがあります。毎回、市民の皆さんにお世話になっています。八朔祭には毎年参加させてもらっています。ここにいる子たちは信玄公祭りにも行きました。

国際交流会館の管理人を始められたきっかけは？

中村 国際交流会館の管理人のお話を聞いたのは旦那さんと伺いました。どのように決心されたのですか。

利通 妻が以前から留学生のお世話をしていたので、自然と留学生と接することが多かったんです。そんな環境の中、せっかく都留に来てくれた留学生が、市民の方とコミュニケーションを取れる場の必要性を感じていました。元々ホテルマンで人と人を繋ぐ経験はありましたし、地域の方と学生を繋いで、都留で楽しく過ごしてもらえれば、と考えてこの仕事を受けました。

聞き手
(男女共同参画推進委員)
中村委員長、加藤委員、前田委員

※国際交流会館とは…平成28年3月に都留文科大学音楽棟近くに開設された、交換留学生の受け入れ施設。1階に多目的ホールがあり、2階以上がシェアハウスの居住スペースになっている。外国からの留学生、日本からの留学生、留学から日本へ帰国後、次のアパートが決まるまで一時的に入る学生が暮らす。



■初めのうちは学生達も緊張しているようでしたが、小林さんご夫婦の助けもあり、いろいろなお話しを聞かせて頂きました。



■学生達は日本の食文化も楽しんでいます。写真右)流しそうめん 左)手巻き寿司

多様性とは目標に向かって個々の役割を果たすこと

中村 多感な時期の子ども達を預かるのは、やりがいのあるお仕事で、この場になければ味わえないような感激も多いのではないのでしょうか。

利通 そうですね。留学生と話をする楽しみはあります。ここに来て生活して、いい思い出がたくさん持って帰国して、また遊びに来てくれてね。

文子 これから何かしよう、頑張ろうとしている若い人達を預かっていただいているので、大切な時間を共有させてもらっているんだなって思います。責任もありますし、悩むこともありますが、頑張ろうとしている人たちの傍にいられることがありがたいです。いいですよ、何だか世界平和に貢献しているみたいで。

前田 ご夫婦と留学生のようないい関係が、多様性の受容、さらには世界平和に繋がると思っています。

文子 多様性って、「同じビジョンをもった人がその目標に向かって個々の役割を果たすこと」かな、と考えています。私たち夫婦は、「夢をもって世界



■利通さんの作るおやつが待ちきれないみたいです

に羽ばたこうとしている学生の力になりたい」という共通目標をもって、お互いに助け合いながら日々を送っています。そして、会館の学生たちは、「夢を叶えたい」という共通目標をもって、日々勉強に励んでいます。ですから、年齢・性別・国籍・文化の違いも関係なく、お互いに認め合い助け合って生活を楽しむことができるんだと思います。

中村 学生たちに「パパ」「ママ」と呼ばれるくらい頼られて、都留を第二の故郷と思ってもらえるくらいのお世話をされているなんて、お二人は都留の財産ですね。

同じビジョンをもった人がその目標に向かって個々の役割を果たすこと

自然体でいることが大事

中村 文化や慣習などの違いで戸惑ったことはありませんか。

文子 会館がオープンして最初の数ヶ月は大変でしたよ。学生たちが散らかすので、ほっといたらゴミ屋敷です(笑)。海外では掃除の仕事をしてくれる人がいるのが普通だから、自分たちのお弁当も食べたらず片付けられないで出て行っちゃったり。だから最初は厳しかったです。

利通 多国籍ですから、それぞれの国の感覚がありますよね。昔、クリスチャンの子に教会はあるかって聞かれたことはありますけど、困ったことはないです。

文子 時々ベジタリアンがいるくらいですね。

利通 ただ、とんでもないことをする子はいましたよ。ここができる前の話ですけど、学校を休んで東京に行っちゃって帰ってこないとか。

前田 お二人の間で、そういった苦労話はいっぱいあるのでですね。

文子 そう、でも今では笑い話です。だから、管理人を一年半やってきて辞めたいなんて言っ

文化の違いを超えて

加藤 都留市には様々な国の方が住んでいます。私たちがお互いの文化などの違いを尊重しながら、地域のルールを守りながら良い関係を築いていくための秘訣があれば教えてください。

文子 結局は『人対人』なわけですから、『気持ち』がなければ、伝わらないですよ。例えば、夜に1階のホールで勉強している子の気持ちを汲んで「遅くまでここにいていいよ。頑張るな」って私もそこに夜遅くまで残ってあげたり、寒い時には温かいものを作ってあげたりしてあげます。そして別の日に、私が「今日はお客さんが来るから騒がないでほしいの」って学生たちに言うと、必ず静かにしてくれれます。そういった持ちつ持たれつ関係を、「おはよう！」とか「元気？」など他愛のない会話から始めていくことが大事なんだと思います。

利通 まずは外国の方に対する偏見がなくなると難しいですよ。実は、日本人とほとんど違いなんてないですよ。受け入れるこちら側が勝手に壁を感じていることが多いので、まずは声をかけてあげて、コミュニ



■浴衣に着替えてうれしそうな学生



■子ども達と百人一首をする学生



■留学生たちによる防災訓練のようす

たことはないですね。「こういうふうにするばもっといういよね」など前向きな話をします。

加藤 そんな前向きな姿勢が、学生たちの居心地の良さに繋がっているのです。

文子 私が大事かなって思っているのは、『自然体』でいることです。そうすると、自分が楽し、子ども達も自然な私たちを見てくれればいいんです。そんな私たちの姿を見て、「今日はちょっと騒いでも平気かな」「今日は静かにしよう」とか、学生が感じ取ってくれたりします。私たちも、子どもたちを見ていて「あの子ちょっと元気がないな」って子がいると、差し入れしながら話しかけたり、時々保健室のカウンセリングの先生にも相談します。

ケーションを取ってみることが大切だと思います。

簡単でおいしく！『“おとう飯”始めよう』キャンペーン！

「知識や技術がなくて料理は作れない…」
 「家族に作るなら立派な料理を作らないと…」
 「せっかく作ったのに家族には不評だった…」

そんな男性たちが料理を始めるきっかけとして、内閣府男女共同参画局が平成29年6月より『“おとう飯”始めようキャンペーン』を実施しています。簡単で手間をかけず、多少見た目が悪くても美味しい料理、それが『おとう飯』です。

『おとう飯』は家事への参加の第一歩。皆さんもぜひ作ってみてください。



■画像提供 内閣府男女共同参画局

おとう飯レシピ 『鶏もも肉の旨煮』

【材料】

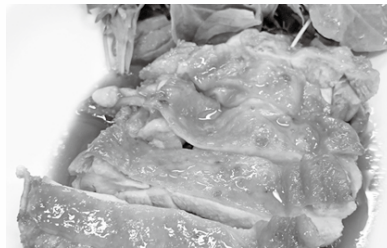
・鶏もも肉 1枚

(調味料)

・にんにく(チューブ) 3センチ

・醤油 大さじ3

・みりん 大さじ4



【作り方】

- 1 鶏肉の皮がついていない方にフォークをプスプス刺し、にんにくを塗りこむ
- 2 鶏もも肉が丁度入るくらいの深めの耐熱皿に醤油とみりんを入れる
- 3 耐熱皿に鶏もも肉を入れて、調味料をまんべんなく付ける
- 4 ラップを鶏もも肉の上にピッタリと張り付くようにかぶせて、600ワットのレンジで3分、ひっくり返して2分加熱する
※お使いの電子レンジの出力に合わせて時間は調節してください。
- 5 火が通ったらレンジから取り出して、3～5分程度冷ます
- 6 包丁で1センチ幅に切って、お皿に盛り付ければ完成！
※熱いうちに切ってしまうと肉汁が漏れてしまうので注意。

おとう飯の心得

一つ、手早く

一つ、簡単に

一つ、リーズナブルな食材で

一つ、家の調味料を使う

一つ、後片付けは最後まで

おとう飯、
見守ってね、おかあはん



この他にもたくさんのおとう飯レシピを公開中です。

詳しくは内閣府男女共同参画局ホームページ『“おとう飯”始めよう』キャンペーン情報をご覧ください。

内閣府男女共同参画局ホームページ <http://www.gender.go.jp/public/otouhan/index.html>

『これってDV?』悩んだら、まずは相談しましょう。

暴力には殴る・蹴る・髪をひっぱるなどの身体への暴力だけでなく、大声で怒鳴る・交友関係を制限する・生活費を渡さない・性行為や中絶の強要など、精神的・経済的・性的な暴力も含まれます。男性から女性への暴力だけではなく、女性から男性への暴力もDVです。

暴力は次第にエスカレートして、被害が深刻になることがあります。

あなたを守るために、一人で悩まず、まず相談をしてください。

窓口相談先

山梨県配偶者暴力相談支援センター女性相談所 ☎055(254)8635(年末年始を除く平日9時～20時)

山梨県立男女共同参画推進センターびゅあ総合 ☎055(237)7830(第2、4月曜日、年末年始を除く毎日9時～17時)

市役所 健康子育て課 ☎(46)-5113(年末年始を除く平日9時～17時)